

ライフサポートひなた

症 例 概 要 利用者:90代 女性 介護度3

利用期間: 令和 7年 4月~

既往歴:変形性腰椎症 腰部脊柱管狭窄症 腰椎圧迫骨折 高血圧症

経過:R6年7月A病院で腰椎圧迫骨折で入院加療。内科的疾患なかったが入院中に高血圧にて降圧剤服薬開始。退院後も腰痛残存しR7年3月上旬に疼痛増強し体動困難にてA病院に救急搬送され入院した。X-P,CCT,MRI共に陳旧性圧迫骨折、脊柱管狭窄症の診断で投薬とリハビリをしていたが、まだ在宅復帰は難しくリハビリ継続の為当施設入所となる。

内 容

入所当初は昼夜問わず精神面に変動あり。居室にこもり、活気も無くベッド上で過ごされていることがほとんどであった。ご家族が面会に来られると「私も一緒に帰る」「早く家に帰りたい」と施設生活に馴染めず、帰宅願望が強くみられた。

現在の状況をご家族へ共有しご家族から

「昔から世話好きだったので役割や仕事があったら元気になるかも」

との情報を得ることができた。

最初は居室からなかなか出てこられなかつたがリハビリスタッフから外気浴は好んで実施できていることを教えてもらいリハビリや外気浴のレク時に花壇の水やりを実施することをお願いした。

フロアでは日常生活で能動的に取り組めることが習慣になることを期待し、テーブル拭きや毎日の献立の書き換えを依頼。テーブル拭きを実施していると、テーブルにいる他ご利用者と談笑される様子も見られ始め、徐々にフロアにいる時間も増えてきた。

当施設で運動会が開催されることを知り「わたしにも何かやれることはないかしら」と運動会で使用する応援グッズの作製に進んで取り組まれた。

運動会当日には代表として選手宣誓をおこない、競技ではまわりに声をかけリーダーシップを発揮、大きな声で応援されたり、笑顔の時間多く過ごされた。

現在では自身で「何か仕事ある」と聞いてこられるようになり、ご利用者とも楽しく生活されており、役割をやりがいとした充実した施設生活を送られている。

多職種で連携し役割を提供することで本人のやりがい、活気の回復を実現した今回の事案をキラキラ介護賞に推薦いたします。